



山 崎 茂 明 教 授

生年月日 昭和22年 9月14日

本 籍 地 東京都

略歴

昭和46年 3月 早稲田大学第一文学部卒業

昭和52年 1月 埼玉医科大学付属図書館（昭和57年 3月まで）

昭和57年 4月 東京慈恵会医科大学医学情報センター助手（昭和61年 3月まで）

昭和60年 3月 慶應義塾大学大学院文学研究科図書館・情報学専攻博士後期課程単位取得後満期退学

昭和61年 4月 東京慈恵会医科大学医学情報センター講師（平成10年 3月まで）

平成元年 7月 米国 College of Physicians of Philadelphia 短期留学（平成元年 9月まで）

平成10年 4月 愛知淑徳大学文学部図書館情報学科助教授（平成11年 3月まで）

平成11年 4月 愛知淑徳大学文学部図書館情報学科教授（平成22年 3月まで）

平成13年 3月 博士号取得（図書館情報学 愛知淑徳大学）

平成22年 4月 愛知淑徳大学人間情報学部教授（現在に至る）

社会活動 日本医学図書館協会機関誌「医学図書館」編集委員長（平成 2年-平成10年）、医学情報サービス研究大会代表幹事（平成 4年-平成21年）、大阪大学大学院研究公正委員会委員（平成18年-平成20年）、を歴任

主な著書・論文

【主な著書】

(単著)

1. 山崎茂明. 医学文献サーチガイド. 日本医書出版協会、1993 (単著)
2. 山崎茂明. 生命科学論文投稿ガイド. 中外医学社、1996 (単著)
3. 山崎茂明. 医学文献サーチガイド. 第2版、日本医書出版協会、1996 (単著)
4. 山崎茂明. 科学者の不正行為. 丸善、2002 (単著)
5. 山崎茂明. 論文投稿のインフォマティクス. 中外医学社、2003 (単著)
6. 山崎茂明. インパクトファクターを解き明かす. 情報科学技術協会、2004 (単著)
7. 山崎茂明. パブリッシュ・オア・ベリッシュ. みすず、2007 (単著)
8. 山崎茂明. 科学者の発表倫理. 丸善出版、2013 (単著)
9. 山崎茂明. 科学論文のミスコンダクト. 丸善出版、2015 (単著)

【主な論文】

(単著)

1. 山崎茂明. 外国雑誌未着の現状と流通事情. 医学図書館、23(2)、97-101、1976
2. 山崎茂明. 埼玉医科大学雑誌の今後. 医学図書館、26(3)、104-110、1979
3. 山崎茂明. わが国の医学専門学会誌の現状調査. 医学図書館、26(4)、157-165、1979
4. 山崎茂明. Japanese Journal of Physiology (1975-1979)を対象とした引用文献分析. 医学図書館、27(2)、93-106、1980
5. 山崎茂明. 学術雑誌の流通と発注に伴う諸問題. 医学図書館、27(4)、212-220、1980
6. 山崎茂明. わが国の医学・自然科学雑誌のレフェリーシステム. Library and information science、20、28-43、1982
7. 山崎茂明. 学術雑誌レフェリーシステムの展望. 大学図書館研究、21、33-42、1982
8. 山崎茂明. 学術雑誌レフェリーシステムの今後. 情報管理、25(12)、1071-1076、1983
9. 山崎茂明. 緑川信之. 臨床医学重要誌を対象とした MAPPING. 医学図書館、30(1)、61-63、1983
10. 山崎茂明. 裏田和夫. 生理学教科書の引用文献分析. 日本生理学雑誌、46(5)、209-213、1984
11. 山崎茂明. 学術雑誌研究への手引. 医学図書館、33(2)、99-110、1986
12. 山崎茂明. 引用文献からみた生理学の卒後教育用教科書の分析. 医学教育、17(3)、185-189、1986
13. 山崎茂明. 学術雑誌の成長をめぐる批判的検討. 情報管理、29(10)、863-870、1987
14. 山崎茂明. 引用関係マップによる学術雑誌コレクションの分析. 医学図書館、34(1)、25-32、1987
15. 山崎茂明. バーゼルでのヨーロッパ科学編集者会議. 医学図書館、36(1)、24-29、1989
16. 山崎茂明. 学術雑誌のレフェリーシステム. 科学、59(11)、746-752、1989
17. Yamazaki, S. (1989). Referee systems of English-language scientific journals in Japan. *Scientometrics*, 15(3-4), 297-303.
18. 山崎茂明. Librarianship: 遠くまで歩いていくために. 薬学図書館、35(1)、14-20、1990
19. 山崎茂明. 「医学図書館」誌の役割と今後. 医学図書館、38(2)、156-159、1991
20. 山崎茂明. 南北戦争以前の医学校設立時の教授からみたアメリカ医学教育形成史. 医学教育、22(6)、359-363、1991
21. 山崎茂明. 論文発表からみた日本の生命科学. 科学、61(8)、544-547、1991
22. Yamazaki, S. (1991). Academic origin of the first professors in American medical schools before the Civil War. *Scientometrics*, 22(3), 359-368.
23. preferred by Japanese scientists. *Scientometrics*, 33(1), 123-129.
24. 山崎茂明. 情報の生産と流通: 情報量の増大とレフェリーシステム. 薬学図書館、37(3)、187-190、1992
25. 山崎茂明. フィラデルフィアの医学図書館ネットワーク. 医学図書館、40(1)、51-55、1993
26. 山崎茂明. 情報メディアとしての学会誌のありかた. 全日本鍼灸学会雑誌、43(1)、1-6、1993
27. Yamazaki, S. (1994). Research activities in life sciences in Japan. *Scientometrics*, 29(2), 181-190.
28. Yamazaki, S. (1994). Ranking Japan's life science research. *Nature*, 372(6502), 125-126.
29. Yamazaki, S. (1995). Refereeing system of 29 life science journals 山崎茂明. 学術論文数の国際比較調査. 情報管理、39(6)、391-407、1996
30. 山崎茂明. 生命科学論文の生産と業績評価: Nature 発表論文への反響. 薬学図書館、41(4)、326-331、1996
31. 山崎茂明. 医学薬学における研究評価. ファルマシア、32(2)、187-192、1996
32. 山崎茂明. National Library of Medicine の活動と医学データベースの今後. 情報管理、40(3)、218-229、1997
33. 山崎茂明. Wellcome 財団の助成活動と研究評価を支援するデータベースの役割. 学術情報センター紀要、9、227-232、1997
34. 山崎茂明. Medline データベースからみた臨床試験文献の分析: コクラン共同計画との連携. 学術情報センター紀要、9、233-239、1997
35. 山崎茂明. 引用指標からみた Japanese Journal of Physiology と主要生理学雑誌. 日本生理学雑誌、59(9)、330-335、1997
36. 山崎茂明. インパクトファクターをめぐる議論: 新しい理解と研究への生かし方. 情報管理、41(3)、173-182、1998
37. 山崎茂明. 引用リンクがひらく新しい研究世界. 情報の科学と技術、48(4)、237-241、1998
38. 山崎茂明. 生命科学におけるオーサーシップと発表倫理. Journal of library and information science、12、67-74、1998
39. 山崎茂明. コクラン共同計画と EBM: Medline データベースをめぐる新しい動向. 病院図書室、18(3)、99-102、1998
40. 山崎茂明. Evidence-based medicine を支援するための新しい情報源とサービス. 情報管理、42(4)、293-302、1999
41. 山崎茂明. 医学図書館員の広場としての機関誌. 専門図書館、17(5)、25-31、1999
42. 山崎茂明. 医学中央雑誌の評価: EBM を支援する情報基盤となるために. Journal of library and information science、14、65-71、2000
43. 山崎茂明. 科学の不正行為への生態学的アプローチ. 情報の科学と技術、51(12)、602-608、2001
44. 山崎茂明. 問題解決型データベース BIOETHICS LINE の意義. Journal of library and information science、15、31-38、2001
45. 山崎茂明. 文献スクリーニングの価値ケネディ記念倫理研究所図書館の活動. 薬学図書館、47(1)、1-5、2002
46. 山崎茂明. インパクトファクターは研究評価指標になりえるか. 塑性と加工、43(498)、28-32、2002
47. 山崎茂明. 科学発表倫理の確立: Schon 事件. 応用物理、72(4)、466-470、2003
48. 山崎茂明. Nature Medicine 論文ねつ造の背景を考える. 化学、60(12)、36-39、2005
49. 不正行為を考える: スキャンダル・アプローチでなく. 技術倫理研究、3、101-105、2006
50. 山崎茂明. 文献からみた医師・患者関係: PubMed を対象にした計量文献学的方法. 愛知淑徳大学論集文学部・文学研究科篇、31、37-44、2006
51. 山崎茂明. 韓国 ES 細胞ねつ造事件の全貌: 発表論文からみた黄教授の不正行為. 化学、61(4)、16-21、2006
52. 山崎茂明. 演説館公正な科学研究が私たちの生活を支える. 三田評論、1091、42-45、2006
53. 山崎茂明. 19世紀フィラデルフィア医学ジャーナリズムの展開. 情報管理、50(2)、87-96、2007
54. 山崎茂明. 発表論文と研究資金からみたマラリア研究のゆがみ. 医学図書館、55(3)、229-234、2008
55. 山崎茂明. 薬学領域における研究者倫理: 利益相反を考えるために. 薬学図書館、54(3)、168-174、2009
56. 山崎茂明. 医学図書館員のための論文執筆と学会発表: 問題発見から解決へむけて. 医学図書館、57(2)、141-145、2010
57. 山崎茂明. オーサーシップの考えを变える時だ. 情報管理、56(9)、636-639、2013
58. 山崎茂明. 生命倫理から発表倫理へ. 病理と臨床、34(6)、643-647、2016